| 授業科目名 | 共生のためのスポーツ | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 渋谷　聡、高木　由起子、秋澤　一輝 | 担当形態 | オムニバス |
| 実務内容<br>（実務家教員の場合） | | | |

「学位授与の方針」との関係

本授業は、「学位授与の方針」のうち、Ａから Ｆの項目すべてに該当する。

授業の到達目標及びテーマ

（１）共生社会について、人と人、国と国、人と自然との関わりから説明することができる。
（２）スポーツの意義や価値を理解することができる。
（３）共生社会のためにスポーツがどう関わっていくことができるかを自分の言葉で説明できる。

授業の概要

近年、政治の世界や教育分野などからはじまり、日常生活においても「共生」という言葉が一般的に使用されてきている。星槎大学では、「人と人、人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」ことを建学の精神とし、開学当初から共生を科学する学部として様々な分野から共生社会を目指した教育や研究が行われている。

本授業では、スポーツが共生社会を目指すために、どのような形で貢献していくことができるかということを様々な角度から検討していく。

授業計画

第１回：共生とは何か
第２回：人と人との共生とは何か
第３回：共生社会を目指すために必要なこと
第４回：スポーツの意義と価値
第５回：スポーツの分類と特徴（１）：実施目的別（勝利重視、楽しみ重視）
第６回：スポーツの分類と特徴（２）：個人スポーツと集団スポーツ
第７回：スポーツと多様性（１）：LGBTQ
第８回：スポーツと多様性（２）：障がい者理解
第９回：スポーツをする対象者
第１０回：スポーツ活動におけるニーズ
第１１回：スポーツにおける共生場面の抽出
第１２回：スポーツにおける共生ではない場面の抽出
第１３回：共生社会に必要なスポーツの役割
第１４回：共生社会を目指すスポーツの課題と解決法
第１５回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容

　共生社会を目指すためにスポーツがどのような役割を担うことができるかということを、グループディスカッションやグループワークといったアクティブラーニング手法を中心に行う。（主に、第１回～第１４回の内容を含む。）

教科書

・山脇 直司（編）『共生科学概説　共生社会の構築のために 教育・福祉・国際・スポーツ（星槎大学叢書）』かまくら春秋社　2019 年　ISBN-13: 978-4774080086

・スポーツ庁『令和 3 年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」について』2022 年
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00098.html

・日本スポーツ協会『体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン』
https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/supoken/doc/lgbt_studyreports/JSPO_guidelines2_low_1P_200608.pdf

参考書文献

（１）　渋谷聡，林直樹，高木由起子（2015）「スポーツにおける共生認識の特性について」星槎大学附属研究センター研究集録 vol.10，pp.68-73．ISSN：2188-045X．

（２）　渋谷聡，服部由季夫，林直樹「共生社会におけるスポーツのあり方を考える」星槎大学附属研究センター研究集録 vol.9，pp.37-39．ISSN：2188-045X．

（３）細田満和子，渋谷聡，吉野ゆりえ（2014）「インクルーシブスポーツの課題と可能性－共生社会におけるスポーツについて」共生科学研究（星槎大学紀要）No.10，pp.136-144．ISSN：1884-1368．

学生に対する評価

スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。